

<p>さっぽろ 市議団ニュース</p> <p>&lt;第1回定例会&gt;</p>	<p>2017年3月27日 No. 177 日本共産党札幌市議団 事務局 tel 211-3221 / fax 218-5124</p>
---	--

## 救急救命センター——三次救急を担う医療機関としての役割発揮へ！ 後方連携など体制強化を

村上ひとし議員が質問

日本共産党の村上ひとし議員は22日、予算特別委員会で救命救急センターについて質問しました。村上議員は、一刻を争う重篤な救急患者の医療(三次救急)を担う市の救急医療センターについて、「緊張感のある治療を24時間365日、年中無休の体制で行う過酷な職場」とのべ、同時に、「搬送された患者の7割はさらなる入院治療が必要で、救急医療センターでの平均入院日数は11日で、14日を超える方が104人、30日を超える方が50人にも上る」として、「入院日数が長くなる理由や課題はなにか」「一般病棟などへの転棟や転院、いわば後方連携(自院の患者を他院へ紹介する際の連携)が円滑になる環境整備をどうすすめているのか」とたずねました。

蓮実経営管理部長は、「重篤な患者に加え高齢者の場合は複数の疾患があって診療科を絞りきれなかったり、病状が刻々と変化するため一般病棟への転棟のタイミングが難しいという事情がある」「一般病棟などへの転棟については基準の見直しを行う予定。他の医療機関への転院にはそれを支援する専任の職員を配置しており、加えて普段から地域の医療機関との情報交換を行うなど連携をはかっていきたい」とのべました。

村上議員は、「院長自らが地域の医療機関に出向き、先頭に立って連携をすすめることが大切ではないか」というと、関病院事業管理者(院長)は、「現在も行っているが、今後とも先頭に立って地域の医療機関との連携をすすめたい」とのべました。

## プライバシーの侵害につながるICT活用実証実験——自治体がやるべきことではない！

伊藤りち子議員が質問

日本共産党の伊藤りち子議員は22日、予算特別委員会でICT(情報通信技術)活用実証実験について質問しました。

「札幌市『顔認証』実験へ」と大きく報じられ不安が広がる札幌駅地下歩行空間でのICT活用実証実験。伊藤議員は、「産学と連携した技術革新の創設やビジネスの活性化をはかるなどとして、人感センサーとビーコン(位置や情報を伝達するための電波)を本人の了承を得たスマホの専用アプリに飛ばし、移動ルートや滞留状況、年代、性別などをえるというが、当初説明されていたカメラ型センサーが無くなったのはなぜか」「個人情報をとらないというが、今後、顔認証など収集する情報を拡大していく考えはないのか」とたずねました。

高森都心まちづくり推進室長は、カメラ型センサーを外した理由をまともに説明できず、「個人情報取得する予定はない」「プライバシー保護は大事であり、専門家や第三者の意見を聞き万全を期したい」とのべるだけでした。

伊藤議員は、この実験を検討した「有識者会議」で、ある委員は「プライベートが筒抜けになるのではという悪い印象を和らげるために、例えば笑顔をセンシング(センサーで情報を得ること)して『今日のスマイルバロメーターは50でした』みたいな…」などと発言していると指摘。「はじめは問題ないと印象づけながらビッグデータとして蓄積しようとするもの」「市民の不安がぬぐえないなか、なぜ札幌市が率先してやる必要があるのか、自治体としてやるべきでない」と迫りました。